

# 妊娠期から関わり 多胎育児家庭を孤立させない

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した一般社団法人あいち多胎ネットの取り組みを紹介いたします。

## 多胎家庭が安心して育児できる 社会を目指して

双子や三つ子などの多胎妊娠は、母体や多胎児への負担が大きいくだけでなく、出産後の育児においても身体的・精神的な負担、経済的な問題により、育児困難に陥るケースが少なくない。さらに、日本での多胎児の分娩頻度は1%ほどで、周囲に同じような多胎家庭が少ないことから育児への共感が得づらく、外出も困難なため、地域社会から孤立してしまいう傾向にあることが課題となっている。

愛知県名古屋市中にある一般社団法人あいち

多胎ネットは、「多胎家庭が笑顔で楽しく育児できる社会」を目指し、医療や行政、地域の子育て支援機関とのネットワークを構築するとともに、当事者同士をつなげながら、それぞれの多胎家庭にあった切れ目のない育児支援に取り組んでいる。

団体の設立経緯について、代表理事の日野紗里亜氏は次のように説明する。

「私自身が三つ子の母親として多胎育児で苦労した経験があります。多胎妊娠は単胎児と比べて早産となることが多く、育てづらさがある乳幼児3人を同時期に育てることは、我が子をかわいいと思うだけでは済まされない育児の限界がありました。そのようななか、愛知県豊田市中で三つ子の母親が育児疲れから、子どもを虐待死させてしまう事件が起き、多胎サークルに参加する母親から『自分がいっ同じ状態になっていてもおかしくなかった』という声があがりました。このような悲しい事件が二度と起きないように、多胎育児の経験者（ピアサポーター）や助産師、看護師、研究職などが集まり、県内の多胎育児支援を拡充することを目的に支援団体を設立しました。」

## WAMから ひと言

多胎家庭が抱える不安に、経験者によるピアサポートと助産師の専門的な知見を組み合わせ、共感性と安全性を両立した質の高い支援をされていることが大いに評価されます。

今後は行政とさらなる協働を行い、受援力が低い家庭に積極的にアプローチすることで、新たな支援者を発見し、さらにこのような活動が全国に広がることで、すべての多胎家庭が安心して出産・子育てできる社会になることを期待します。

## 妊娠期からつながり 産後の多胎育児に備える

主な活動として、多胎家庭の交流や団体の啓発を行うイベント開催をはじめ、多胎児を妊娠中の家庭を対象にした「多胎プレファミリー教室」の開催、ピアサポーターや保健師・助産師などの専門職、子育て支援者に対する多胎育児に関する研修事業を実施している。さらに、名古屋市の「多胎児家庭支援事業」を受託し、多胎育児家庭の電話相談や乳幼児健診の同行支援に取り組んでいる。

同法人は、令和3年度のWAM助成を活用し、「Hello! 妊娠期からつながろう! あいち多胎育児支援事業」に取り組んだ。同事業は、多胎育児家庭が安心して育児ができるよう、妊娠期から訪問支援で関わりながら情報提供を行うことを目的に、①多胎妊娠者向け家庭訪問支援、②多胎妊娠家庭訪問





訪問支援を担うピアサポーターを対象にした研修の様子



訪問時にはアセスメントシートを使用し、多胎育児で想定されるトラブルや対処方法についてアドバイスを行った

支援者研修、③愛知県下多胎育児家庭への情報提供支援ツールの制作を実施した。

「妊娠期からの訪問支援に取り組んだ理由として、多胎妊娠は出産リスクが高く、母親の多くは子どもを無事に出産することがゴールになりがちで、産後の育児までイメージや準備ができていないことが多くなっています。産後の訪問支援は過酷な育児生活のなかでアドバイスを聞く余裕がなかったり、情報収集や支援者とのつながりを得ることは容易ではないことから、比較的余裕のある妊娠期からの訪問支援により専門職やピアサポーターとつながり、情報提供を行うことで産後に備えることが必要だと考えました」（日野氏）。

事業の円滑な実施にあたっては、法人理事や主要メンバーのほか、地域の多胎サークルで構成する事業実行委員会を立ち上げ、課題を共有しながら支援内容や情報提供ツールの

制作などの検討を行った。

## 行政と連携し 訪問支援と研修を実施

家庭訪問支援では、孤立しがちな多胎育児家庭に妊娠期から介入することにより、社会とのつながりを把握し、産後に必要とされる支援の情報提供を行うとともに、訪問支援のニーズや満足度などのアンケート調査を実施した。

訪問支援の実施にあたっては、愛知県豊田市に協力を呼びかけ、訪問後に各家庭の状況について報告を行い、その情報をも

## 事業概要

助成額

329万3千円



WAM 助成  
e-ライブラリー

## 令和3年度事業

## 一般社団法人あいち多胎ネット

Hello! 妊娠期からつながろう! あいち多胎育児支援事業

### 【事業概要】

愛知県内で多胎育児家庭が安心して生活できることを目的に、妊娠期から行政や支援団体、医療関係者、多胎サークルなどと連携し、多胎児を家庭に迎えることを切り口とした訪問支援を実施するとともに、支援者育成や多胎育児支援に関する情報提供ツールを制作する事業



### 【実施内容】

#### ◆「あいち多胎妊娠者向け家庭訪問支援」育児動線相談事業

孤立しがちな多胎育児家庭に妊娠期から関わるため、助産師とピアサポーターが多胎妊娠者の家庭を訪問し、育児動線のアドバイスや育児支援などの情報提供を行う



#### ◆多胎妊娠家庭訪問支援者研修

家庭訪問支援を担うピアサポーターを対象にした研修を実施し、支援に必要なスキル習得を図る

#### ◆愛知県下多胎育児家庭への情報提供支援ツールの制作

事業内容を周知するとともに、県内の各市区町村で行われている多胎育児に特化した支援情報を掲載した冊子とHPを制作

### 【成果】

◆家庭訪問支援は、愛知県豊田市に在住する多胎家庭5家庭を対象に、産後に必要な支援の情報提供を行った  
妊娠期から専門職やピアサポーターと関わることで、産後は訪問したすべての家庭が多胎サークルへの参加や訪問看護を利用するなど、多胎育児家庭の孤立を防止することにつながった

◆制作した冊子（3000部）は、行政や子育て支援団体、医療機関などに配布し、県内外から大きな反響があった（5000部を追加発行）  
冊子を通じて、さまざまな子育て支援団体から多胎育児家庭への支援や対応に関する相談が寄せられ、連携体制が構築されることにつながった



事業の波及効果として、豊田市では令和5年4月から多胎家庭訪問支援事業が開始されることになった。また、冊子に掲載した多胎育児支援は、県内の各市区町村に調査を依頼したことで、行政は他地域の支援状況を把握することとなり、新たに支援が開始されるきっかけとなった

とに必要に応じて妊娠期からのアプローチや社会資源の紹介、産後のフォローをしてもらう連携体制を構築した。  
訪問支援の対象は、豊田市が開催する「多胎パパママ教室」や、案内チラシの配布を通じて募集し、訪問支援を希望した市内在住の多胎妊娠家庭5家庭に対し、育児困難な多胎家庭への訪問看護を行う助産師と、地域のピアサポーターがペアで訪問支援を行った。  
訪問支援の体制について、同法人理事であり、助産師として訪問支援を担う近藤綾子氏は次のように説明する。



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。



赤ちゃんの模型を用いて沐浴のイメージをしたり、日中に安全に過ごせる場所を確認している様子



左から理事の榊原綾子氏、ピアサポータークラブ副会長の本多ゆかり氏、理事の近藤綾子氏（助産師）、代表理事の日野紗里亜氏、監事の福田雅彦氏

そのほか、助成事業では多胎育児家庭への情報提供支援ツールとして家庭訪問支援事業の紹介をはじめ、県内の全市区町村で実施されている多胎育児に特化した支援策など、多胎育児に関する幅広い情報を掲載した冊子とHPを制作した。

「冊子は3000部発行し、行政や子育て支援団体、医療機関、子育てサークル等に配布しましたが、県内外から大きな反響があり、配布の依頼が相次いだこ

## 多胎育児に関する 支援情報ツールを制作

「ピアサポーターは、自身の育児経験からさまざまな情報や工夫を知り、当事者にとっても共感性が高いものの、専門職ではないので知識の汎用性や安全性の保障は低いという側面があります。一方、専門職はエビデンスに基づく情報をもつのに対し、共感性が低いことから、両者がペアで訪問することで、互いを補いあいながら支援の質を高めました」。

訪問支援を担うピアサポーターに対しては、多胎育児家庭の支援に必要なスキルを学ぶ支援者研修を3回開催し、延べ30人あまりが受講した。

研修では、近藤氏が講師を務め、多胎家庭の育児状況や傾聴などのコミュニケーションスキルを学び、どのような視点で介入することが重要であるかを伝えた。また、研修にはピアサポーターだけでなく、行政担当者も参加して支援内容を把握するとともに、研修会場を提供してもらうことができたという。

## 育児動線相談で 効率性と安全性を確保

訪問支援では、各家庭内の間取りを確認して多胎児を自宅に迎えるアドバイスをを行う育児動線相談を行いながら、産後に必要となる支援の情報提供を行った。

「多胎育児は同月齢の複数の子どもを養育することになるため、効率的であることが大切です。また、複数の子どもがいることで、思わぬ事故に発展することがあります。そのため、育児動線相談では自宅の間取りを確認し、2体の赤ちゃん模型を使用して具体的な育児をイメージしてもらいながら、育児動線についてアドバイスをしました。例えば、沐浴では一人の子どもが沐浴をしている間に、もう一人の子どもを移動させ寝かせられる安全なスペースを確保したり、日中に過ごす場

所、夜間に就寝する場所などについて一つひとつ確認しました」（近藤氏）。

さらに、訪問時には、産後1年間の多胎育児計画を可視化したアセスメントシート「Tatai 1 Year Plan」を使用した。

独自に作成したアセスメントシートは、時系列で健診や予防接種などの健康管理スケジュール、成長発達の確認事項、想定される育児トラブルなどを掲載しており、専門職からの情報提供やピアサポーターの経験談を聞きながら、家庭ごとに頼る相手やリソース先などを事前に記入してもらい、産後の多胎育児に備えるツールとして活用している。

訪問支援に対するアンケート調査では、すべての家庭が支援に満足したと回答し、「多胎育児を具体的にイメージすることができた」、「訪問支援で知った情報が多く、産後の育児に活かすことができている」という声が寄せられたという。

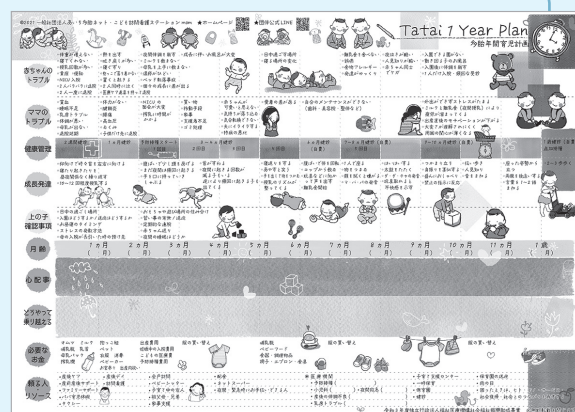


助成事業の成果として、妊娠期から多胎育児家庭と関わる仕組みをつくるとともに、幅

## 妊娠期からの 多胎育児支援が拡大

さらに、冊子でも紹介したアセスメントシートは、行政の行う乳幼児訪問においても活用されるほか、全国の医療機関などから多くの関心が寄せられたという。

また、冊子を通じて全国の子育て支援団体から多胎育児家庭への支援や対応などに関する相談が寄せられるなど、子育て支援団体との連携が広がることにもつながりました（日野氏）。



アセスメントシート「Tatai 1 Year Plan」。  
現在は行政が行う乳幼児訪問にも活用されている

## 事業の継続に向けて



一般社団法人あいち多胎ネット  
代表理事 日野 紗里亜氏

今後の展望としては、事業を継続していくことに尽きます。その一方で、慢性的なマンパワー不足が課題となっています。その要因として、当法人は多胎育児経験のあるピアサポーターが中心に支援を支えてくれています。自身の子どもの成長とともに、同時期に学校の受験や進学などの経済的な問題が起きるのに対し、支援に専念できるだけの給与を支払うことが難しいということがあります。これを仕事として成り立つことができるようになれば、マンパワー不足の解消にとどまらず、支援の拡充にもつながると思います。運営を安定させるためにも行政の事業化を目指すとともに、収益化させる事業の創出に取り組んでいく必要があると考えています。

### ◆団体概要

〒465-0095  
愛知県名古屋市名東区高社一丁目89番地 第二東昭ビル4A  
TEL: 052-778-7033  
FAX: 052-855-3605  
URL: <https://aichi-tatai.net>  
設立: 平成30年8月  
代表理事: 日野 紗里亜

広い支援情報を広く発信することにより多胎育児支援の普及や活性化につながることでできた。

「妊娠期から専門職やピアサポーターが関わり、情報提供を行うことで、すべての家庭が訪問看護の利用や地域の多胎サークルへの参加につながりました。産後の困りごとがあった際にも相談できる相手や場所があることで、多胎育児家庭の孤立を防止するとともに、安心して育児ができるようになり、妊娠期からの訪問支援の重要性をあらためて実感しています。その一方で、訪問支援を行った家庭は支援希望者のため、悩みを打ち明けていたことができませんでした。潜在的な受援力が低い母親のほうに虐待のリスクが高いという実態があり、すべての多胎育児家庭への訪問支援を行うことを目指していきたいと思っています。

事業の波及効果として、豊田市では令和5年度から「多胎家庭訪問支援事業」として妊娠期からの訪問支援が事業化されることとなった。さらに、同法人が自主事業で実施していた多胎児を妊娠中の家庭を対象にした「多胎プレファミリー教室」が名古屋市から受託する多胎児家庭支援事業のなかに組み込まれるなど、妊娠期からの多胎育児支援が広がりをみせているという。



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

### ●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）  
TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）  
TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)

### 令和5年度 WAM助成シンポジウム開催のご案内

テーマ: こどもまんなか社会の  
実現に向けて  
～地域を巻き込むNPOの在り方～  
日時: 令和5年9月26日(火)  
13:00～16:00  
(オンライン配信)



▲その他詳細、お申し込みはこちら

